

発行：墨田区(地域活動推進課)
〒130-8640 墨田区吾妻橋一丁目23番20号
☎ 03-5608-6202 FAX 03-5608-6934
✉ KATSUDOSUISHIN@city.sumida.lg.jp



いにしえから今の時まで 「文化の源」隅田川

江戸時代の隅田川東岸は、『江戸名所花暦』に「江戸第一の花の名所」と称えられ、江戸を代表する桜の名所として知られていました。さらに同書には「この地は、桜にかきらす、四時ともにいとよき地なれば」とあり、春の桜以外にも、夏は螢や花火、秋は萩をはじめとした七草、冬は雪景色など四季折々に美しい景観を臨むことができる地として人々を魅了していたことがわかります。しかし、隅田川周辺が名所として江戸の人々に愛された理由は、風光明媚な景色のみにあるわけではありません。

現在の墨田区桜堤中学校の南端と台東区石浜神社間付近には、奈良時代より官道(当時の東海道)の渡し場が設けられていました。この官道は朝廷へ収める税を運搬するための道筋であり、承和2年(835)の太政官符には、元々二艘あった隅田川の渡し船を四艘に増やす事が定められています。10世紀に成立したと思われる歌物語『伊勢物語』に記された、隅

田川の渡しで在原業平とされる公達が都を懐かしんで和歌を詠む名場面は、その後多くの文学作品に引用され、広く知られるようになりました。

鎌倉時代以降、隅田川の渡し付近に「隅田宿」という町が形成され、物流の拠点として栄えました。『義経記』の「折節西國船の著たるを數千艘」という記述からはその繁栄ぶりがうかがえます。当時、隅田川は『伊勢物語』に書かれた歌枕「隅田川」の地として名所になりつつあり、この地を訪れた旅人達によって『とはずがたり』『夫木和歌抄』『北国紀行』など数々の文学作品に登場するよう



「業平東下り」歌川広重 画

になります。

さらに隅田宿では、京都から人買いに連れられ隅田河原で横死した貴族の子弟、梅若丸の伝説が誕生しました。梅柳山木母寺の縁起でもあるこの物語は、観世元雅の手によつて能「隅田川」となり、江戸時代に至つて浄瑠璃や説経に仕組まれ、やがて歌舞伎の一大ジャンル「隅田川物」として流行し、その後の諸芸能に大きな影響を与えました。

江戸時代初期に街道の道筋が変わり、宿も移転したため人々の往来は遠ざかりましたが、様々な文学や芸能にゆかりのある、文化的で優雅な土地というイメージは、隅田川の清流と田園が織りなす美しい風景と相まって、徳川将軍家を初めとした上流の武家や、公家、文人など多くの人々を惹きつけ、土手の桜並木や隅田川七福

神など、現在も親しまれている隅田川の風物が生み出されました。

万治2年(1659)、本所開発の本格化にともない隅田川の下流域に両国橋が架橋されると、橋の両岸に設けられた火除け地の広場には小芝居や見世物の小屋が建ち並び、大勢の人々で賑わいました。火除け地であるため仮小屋しか建てられませんでした。その反面、次々に店や出し物が入れ替わり、常に新しい娯楽が生まれる流行の先端地でもあったと言えます。

隅田川は、古代から水路と陸路の接合点であり、様々な人々や物や情報を結びつけました。その地理的、歴史的環境が時代ごとに文学や芸能、娯楽など多様な文化を生み出し、絶えず人々を惹きつける要因となり、今日まで続く豊かな歴史的文化的世界を育んできたのです。

(すみだ郷土文化資料館

資料館学芸員 高塚 明恵)

※表裏両面ともに、平成30年度
すみだ地域学セミナー特別講座
講演(2月16日)より



隅田川で遊び、楽しむ アートプロジェクト「すみゆめ」

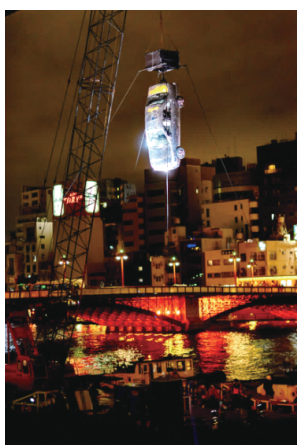
古来「隅田川」は芸能や文学にも登場し、江戸の頃は庶民の遊び場、四季折々に川辺に集い、両国橋界隈は興行でにぎわいました。明治から大正初期までは、隅田川で飛び込みや寒中水泳をする様子が写真資料に伺えますが、高度経済成長期に工場排水や生活排水で汚れてしまうと、徐々に川は遠い存在になってしまいます。そんな隅田川にアーティストが目を向け、楽しく遊べる催しがあれば、もっと川は身近で親しみやすく、そして、きれいな流れであってほしいと願う人が増えるのではないのでしょうか。

「隅田川 森羅万象 墨に夢」
(通称…すみゆめ)は、すみだ北斎美術館の開館を機に、平成28年に始まったアートプロジェクトです。葛飾北斎が90年の生涯を過ごしたすみだの地で、芸術文化に限らず森羅万象あらゆる表現を行っている人たちがつながりながら、この地を賑やかに彩っていくことを目指しています。これまで「北斎

「隅田川」を主なテーマに、地域のさまざまな場や資源を活かす企画を募り、公園や商店街、遊休施設などで多彩な活動を展開してきました。

昨年は「隅田川にこだわる！」を掲げ、9月3日から12月28日まで、公募により選ばれた17件の企画と、国内外で活躍するアーティストによる企画を3件実施しました。キックオフイベント「すみゆめ踊行列」では、吾妻橋船着場を一日限りの「隅田川埠頭」に見立て、屋形船や水上バス、水上タクシーに乗って、川の歴史や風土を知るトークイベントやリサーチ、音楽イベントを行うほか、山本墨田区長・服部台東区長を交えて、隅田川の未来を考えるシンポジウムを実施。また親水テラスでは、釣り体験や影絵パフォーマンスを楽しむなど、川の魅力を発見し、遊び、使うきっかけづくりの場と

で、公募により選ばれた17件の企画と、国内外で活躍するアーティストによる企画を3件実施しました。キックオフイベント「すみゆめ踊行列」では、吾妻橋船着場を一日限りの「隅田川埠頭」に見立て、屋形船や水上バス、水上タクシーに乗って、川の歴史や風土を知るトークイベントやリサーチ、音楽イベントを行うほか、山本墨田区長・服部台東区長を交えて、隅田川の未来を考えるシンポジウムを実施。また親水テラスでは、釣り体験や影絵パフォーマンスを楽しむなど、川の魅力を発見し、遊び、使うきっかけづくりの場と



「隅田川ディスコwith
ミラーボールカー」
アーティスト西野 達



「隅田川ディスコwithミラーボールカー」アーティスト西野 達

★ 2019 年度
「隅田川 森羅万象 墨に夢」
プロジェクト企画を募集しています！
【応募期間】
2019 年 4 月 1 日～ 25 日
※ 詳細は「すみゆめ」
ホームページまで

（すみゆめ）実行委員会事務局長、
墨田区文化振興財団常務理事
荻原 康子

かと思えます。

他にも、親水テラスにスクリーンを立てて映像上映と音楽イベントを行ったり、ピアノを置いて、行き交う人が自由に弾ける「ストリートピアノ」の試みなど、皆でつくり、皆で楽しむアートプロジェクト「すみゆめ」が、隅田川の新たな景色を創り出しています。



鈴木康広「ファスナーの船」